

平成 28(2016)年

12月1日

第三学年保護者の皆様へ

吹田市立第三中学校

校長 山口 廣 治

平成 28 年度 全国学力学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「平成28年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と数学に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果の分析

□ 国 語

《結果の概要》

○国語A問題（『知識・技能』に関する問題、総問題数33問）

- ・基礎的、基本的な知識・技能が身につけているかどうかをみる問題であった。本校の正答率は全国値とほぼ同じであった。
- ・評価の観点では、「言語についての知識・理解・技能」の領域で、本校の正答率は全国値を上回った。漢字の読み書き、語彙力を問われる問題では多くが全国値を上回った。

○国語B問題（主として『活用』に関する問題、総問題数9問）

- ・基礎的・基本的な知識を活用することができるかどうかをみる問題であった。本校の正答率は全国値とほぼ同じだった。
- ・評価の観点では、「読む力」の領域の中で、「目的に応じて文章を要約する」、「文章の展開に即して内容を理解する」という問題で、本校の正答率は全国値をやや上回った。「書く力」の領域では、「自分の考えを書く」という問題は全国的にも正答率が低くなるが、本校は無答率が高かった。

《課題と今後の取組》

- 漢字の読み書きを覚えるだけでなく、語彙力を伸ばしていかないといけない。毎週行う漢字テストや意味調べなども丁寧に行い、授業中に国語便覧、辞書なども適宜用いて、語彙力の底上げをしていきたい。
- 自分の言葉で文章を書くことへの苦手意識が強い。授業で作文練習・テストを継続して行い、「書く力」を伸ばす工夫をしていきたい。

□ 数 学

《結果の概要》

○数学A問題（主として『知識』に関する問題、総問題数36問）

- ・基本的な数量や図形について、知識・技能が習得できているかどうかをみる問題である。本校の正答率は全国値を上回った。
- ・学習指導要領の領域別では、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域で全国値を上回った。
- ・基本的な計算においては、すべての問題において全国値を上回った。
- ・ほとんどの問いにおいて、全国値を上回るかほぼ同等であったが、作図の方法を問う問題において全国値を下回り、三角形の合同条件について問う問題においても全国値を下回った。
- ・無答率の平均値は、全国値を上回った。

○数学B問題（主として『活用』に関する問題、総問題数15問）

- ・基礎、基本的な数量や図形についての知識・技能を発展活用することができるかどうかをみる問題である。本校の正答率は、全国値を上回った。
- ・学習指導要領の領域別では、「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」のすべての領域で全国値を上回った。
- ・評価の観点別、問題形式別でも、全国値を上回っていた。
- ・ほとんどの問いにおいて、全国値を上回るかほぼ同等であった。
- ・記述式の問題では、無答率が高く、課題がある。授業や校内テストでも充実していく必要がある。

《課題と今後の取組》

○3年前より引き続き行っている「授業開始テスト(JKT)」の成果として、計算力を問われる問題で、全国値を上回ることができている。今後もJKTを実施し、計算の反復練習をすることで、基本的な計算力を高め、数学に関する関心意欲を引き出していきたい。

○数学Bでは、記述式の問題で全国値を上回ったものの、無答率が高い（全国的に見ても、他の設問形式に比べ正答率も低い）ので、今回実施された国語科・数学科・のみならず、文章で（または、自分の言葉で）自分の考えを表す力をつけるために、全教科・全領域で言語活動の充実が必要であ

る。本校では引き続き、全教育活動の中で、「伝え合う力」の育成に取り組んでいきたい。

2. 「生徒質問紙」に関する調査の分析

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査である。

質問は全部で 87 問あったが、ここでは特徴的な結果が出た質問に関してのみ取り上げた。

基本的な生活習慣

- ・朝食の摂取率は全国値とほぼ同じである。
- ・起床時間、就寝時間は、全国値と比較すると一定の時刻に決めている割合がやや低い。ただし、今回の設問では、その時刻が「早い」のか「遅い」のかは不明である。

携帯電話・スマートフォン 等

- ・普段（月～金曜日）、携帯電話やスマートフォンで 1 日あたり 4 時間以上通話やメールをする割合が、全国値よりやや低い。
- ・普段（月～金曜日）、テレビゲーム、携帯電話やスマートフォンで、1 日あたり 4 時間以上ゲームをする割合が、全国値をやや下回る。

家庭学習 等

- ・平日家庭学習を 2 時間以上（学習塾等での学習を含む）している生徒の割合は、全国値をやや上回る。
- ・平日家庭学習をまったくしない生徒の割合は、全国値をやや下回る。
- ・休日家庭学習を 2 時間以上している生徒の割合は全国値を上回る。
- ・休日家庭学習をまったくしない生徒割合が全国値を上回る。
- ・家で学校の宿題をしている生徒の割合は、全国値を下回る。
- ・家で学校の予習復習をしている生徒の割合は、全国値を下回る。
- ・「新聞を読んでいる」「読書が好き」と答えた生徒の割合が、全国値をやや下回る。

学校生活・学校での学習状況

- ・「学校に行くのは楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた生徒の割合は 8 割あった。
- ・「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に、当てはまる、やや当てはまると答えた生徒の割合は、全国値を上回った。
- ・「自分の考えを文章に書いて、他の人に伝えることはむずかしい」と答えた生徒の割合が、全国値を上回る。
- ・「解答を文章で書く問題で、最後まで書こうと努力した」と答えた生徒の割合が、全国値とほぼ同じだった。

- ・「生徒の間で話合う活動をよく行っていたと思いますか」という質問で当てはまる、やや当てはまると答えた割合が全国値を上回った。

家庭でのコミュニケーション

- ・「家の人と学校での出来事について話している」と答えた生徒の割合が、全国値をやや下回る。

自尊心・規範意識

- ・「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と答えた生徒の割合が、全国値を下回る。
- ・「学校のきまりを守っている」「どちらかといえば守っている」と答えた生徒の割合は 9 割程度いる。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけない」と答えた生徒の割合は 9 割近くあった。
- ・「人の気持ちがわかる人間になりたい」「人の役に立つ人間になりたい」と答えた生徒の割合も高い。

3. 今後の取組みについて

平成 19 年から始まった「全国学力学習状況調査」は、実施教科は国語と数学の 2 教科での実施となりました。したがって、測定結果は学力の一部であり、学校における教育活動の一側面といえます。しかしながら、調査によって判明した課題は、本校の教育活動全体の工夫・改善に大いに参考となる貴重な資料ととらえ活用いたします。そして、「すべての生徒に基礎事項の定着と、仲間と共に学ぶ喜びを育てる」という本校の重点目標の推進に生かすよう取組みを進めてまいります。

各ご家庭におかれましても、学習活動の基盤となる基本的な生活習慣(早寝・早起き、規則正しい食生活、家庭学習の定着など)の確立やお子さまの成長にとって不可欠なさまざまな生活体験を通して、「生きる力」を育てていただきますようお願いいたします。今後も家庭と学校と密接に連携を図りながら、教育活動を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。